

岸和田市郷土文化室（自然資料館（自然史担当）・郷土史担当・文化財担当）

平成 22 年 10 月 日

生物多様性をめぐる動き-名古屋 COP10-

楠瀬 雄三

新聞やテレビなどで、最近よく耳にする用語に「生物多様性」があります。今年は 10 月に名古屋で生物多様性を守るための国際会議が開かれました。この国際会議は正式には第 10 回生物多様性条約締約国会議といい、通称 COP10（コップテン）と呼ばれます。この条約に加盟している国と地域は 193 にのぼり、まさに世界中から生物多様性に関わる政府、NGO 等の関係者が集まりました。第 10 回目にあたる COP10 は、日本で開かれたこともあり、国内では報道で取り上げられる機会も多かったのですが、世界的にみても今回の COP10 は非常に注目されていました。それは、今年がこの生物多様性条約の目標が達成されているかを判断する節目の年にあたっていたからです。その目標というのが「2010 年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」というもので、2002 年の会議で採択されました。さらに、2020 年、2050 年に向けた新しい短期的・中長期的な目標を定める重要な会議と位置づけられていました。

今、地球上では多くの動植物が絶滅の危機に瀕していると言われています。生物多様性条約の事務局が絶滅の危険度を分類群ごとに調べた結果、1980～1990 年代と比較して両生類、哺乳類、鳥類などで絶滅の危険度が増加しているとの報告がなされました。特に両生類については、1980 年代で既に絶滅の危険が高く、最も絶滅のおそれのある種が多く含まれる分類群といわれています。また、サンゴは、1990 年なかごろにはそれほど絶滅の危険が高くなかったのですが、2000 年代にかけて急激に絶滅の危険性が増加しました。生物多様性の評価には、絶滅危惧種の状況のほか、食物連鎖や侵略的外来種、自然保護区など 15 項目がありますが、残念ながら「2010 年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という 2010 年目標は達成されなかったと結論されました。しかし、2010 年目標に向けて生物多様性の現状を評価し、改善しようとする活動の中で、国際的な交流が深まったことや、日本ではこれまで予算規模の小さかった環境省において目標に向けた予算の確保や活動を展開することが可能になったことは成果の一つに挙げられます。

会議では 2020 年に向けた短期目標の内容について先進国と発展途上国の間で交渉が難航し、合意に達したのは最終日の日付を越えていました。2020 年に向けた新しい目標は「多様性の損失を止めるための緊急行動を取り、2020 年までに生態系を回復させる」という内容に決まり、開催場所の名前にちなみ「愛知ターゲット」（名古屋ターゲットとも呼ばれる）と名付けられました。愛知ターゲットの成果の一つとして自

然保護区に関して数値目標を設定できたことが挙げられます。目標の一つとして「2020年までに少なくとも陸域の17%、海域の10%を保護区として守る」が示されましたが、特に現状では1%にも満たない海域の保護区に関して10%の数値目標を定めたのは大きな成果と言われています。

生物多様性条約の加盟国には、条約が掲げる目的に向けて、国内において関連する法律を制定する義務があります。日本では2008年に「生物多様性基本法」制定されました。本法律では生物多様性を保全し、持続可能な利用を進めるために国、地方公共団体、事業者、国民の責務が明文化されています。国については、生物多様性国家戦略を策定することとされ、2010年に第四次国家戦略が示されました。同様に地方公共団体についても生物多様性地域戦略を策定することを規定しています。しかし、この規定は努力義務とされており、現在のところ、地域戦略を策定しているのは兵庫県や滋賀県、名古屋市など10の自治体のみです。しかし、検討中の自治体は10県、10市町あり、今後は各地で地域戦略の策定が進んでいくことでしょう。地域戦略の策定には、その地域の自然環境について情報の蓄積が欠かせません。その多くは教育機関や市民団体による活動によって得られるものです。その重要性は今後、ますます大きくなっていくと思います。

(くすのせゆうぞう：きしわだ自然友の会)

御薬園跡

山岡 邦章

先日、出張で福島県の会津若松に行く機会がありました。もちろん鶴ヶ城などの史跡整備状況の検討が主要内容でしたが、その中で、会津には「御薬園」という国指定史跡がありました。

冒頭に会津若松の話を書いたのには実は・・・という話があつて、岸和田にも実は御薬園跡という市指定史跡があるのです。岸和田城天守の前の道を南に進み、突き当たりを左折すぐ、現在の市駐車場のあたりが岸和田の「御薬園跡」です。残念ながら現状には何も残ってはいません。ここは明治維新後、岸和田區裁判所として利用され、近年まで裁判所が建っていました。

この御薬園跡とは、岸和田藩岡部家九第藩主岡部長慎（ながちか）が命じて作らせたと考えられる藩の薬草園で、幼い頃、病弱だったとされる藩主のために、様々な薬用植物が栽培されていたようです。こういった背景から岸和田藩は植物学、当時は本草学といいますが、本草学に理解があり、長慎は隠居後、小野蘭山という日本で第一人者の有名な本草学者の研究を出版する費用を負担して、広く普及した本としては日本で最初の本草学書である「重訂本草綱目啓蒙」と「図譜」を出版するなど、日本の本草学の発展に大きく寄与しました。これはわかりやすく言えば、日本初の本普及版博物学事典のようなものです。

また、さらに長慎は隠居後、藩校の講習館を建てたりして、文教政策に力を注いだ人物でもありました。

さて、会津の「御薬園跡」は、当時の藩主の別邸が戊辰戦争の戦火を幸運にもくぐり抜けてそのまま残り、現在は庭園、薬草園として整備されています。畑には朝鮮人参をはじめ、会津の地元の薬草、各地の薬草が植えられ、綺麗に管理されていました。この状況は同じような薬草園があった岸和田として、非常に考えさせられるものがあります。

さらに、休憩所では薬草茶の振る舞いがあり、薬草を使ったお土産などが販売され、様々な活用がなされ

れていたのは驚きでした。

すでに無いものは仕方ありません。でも、現状を変えていくことはできるかもしれません。せっかく自然資料館と文化財のセクションが同じになって働いているのです。会津若松を見学しながら、岸和田の「御薬園跡」を、現在の視点でよみがえらせてみたいと思いました。

具体的なことはこれからですが、畑の畝の2～3本からでも、“復活”できないものでしょうか。素人が朝鮮人参を植えるわけにもいきませんから、

現代風にハーブを植えてもいいかもしれません。ハーブも薬草の一つですから。

日本で初めての本草学書の普及を願い、藩費でそれを出版した岸和田藩。すでに藩の財政状況は逼迫しており、倭約令などの様々な財政再建計画が出されていた時期に、公私の分け隔てなく、素晴らしいものには支援を惜しまなかった。こういった時期に文化と教育に投資できるということは、なかなかできないことでしょう。

岸和田の先人の崇高な思想を継承する上で、御薬園を復活させてみる。ハードルは高いかもしれませんが、いかがでしょうか。ご意見お待ちしております。

(やまおかくにあき：郷土文化室)

information

■岸和田城の展示案内■

企画展：「岸和田の近世絵図と古文書」

市内各地の江戸時代の様子を絵図と古文書から探ります。

- ・会 期：12月8日(水)～3月6日(日)
- ・入場料：大人 300 円 中学生以下無料
- ・時 間：午前 10 時～午後 5 時 (入場は 4 時まで)
- ・休場日：月曜日(1 月 10 日は開場します)、年末年始(12 月 30 日～1 月 4 日)
- ・主な展示資料
牛滝川・久米田池図(貞享 3 年)
神於山図(天保 7 年)
内畑村絵図(寛政 10 年)
久米田池郷申合書(寛政元年) ほか約 30 点
- ・問合せ先：郷土文化室(TEL:072-423-9689)

■きしわだ自然資料館の展示およびイベント案内■ 特別展「モササウルス」

特別展「モササウルス」は、もうご覧になりましたか？今回は、2006年に和歌山県で発見された「ひれ足」部分の化石をはじめ、日本や外国の化石を豊富にそろえました。さらに、最新の研究成果を盛り込んだ生態復元画(小西卓哉氏監修・小田隆氏作画)も、世界に先駆けて公開します。会期終了までにぜひご利用ください。

- ・会 期：1月30日(日)まで
- ・会 場：きしわだ自然資料館 1 階ホール
- ・入場料：大人 400 円 (常設展示含む)、中学生以下無料
- ・休館日：月曜日(祝日は開館)、11 日(火)
- ・展示構成：モササウルスって何？／モササウルスの生きていた時代／モササウルス研究史／モササウル

ス進化への道／最新の研究成果にもとづくモササウルス復元／歴代復元画から見る研究の歴史ほか

折り紙ワークショップ「リスを折ろう」

毎年恒例の折り紙ワークショップ。今年は「リス」を折ります。どの本にも載っていないオリジナルの折り方で楽しみましょう。

日時：2011年1月22日（土）午後2時～4時

会場：岸和田市立公民館講座室3

講師：加茂弘郎氏（日本折紙協会講師）

対象：手本を見ずに最後まで折り鶴が折れる人（小学生以下は保護者同伴）

定員：30名（保護者含む）

費用：無料

持ち物：筆記用具、折った作品を持って帰るための入れ物（お菓子の空箱など）

申込：当日午後1時30分から先着順

大阪層群の植物化石観察会

岸和田市阿間河滝町で、大阪の丘陵地をかたちづくる地層「大阪層群」を観察します。植物化石の採集をおこなったあと、室内で化石クリーニング作業も行います。

日時：2011年2月20日(日)午前10時～午後4時予定(雨天中止)

場所：岸和田市阿間河滝町および葛城地区公民館研修室

講師：渡辺克典氏（自然資料館専門員）ほか

費用：1人50円（保険代）

対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）

定員：30名（保護者含む）

申込：2月1日（火）～14日（月）「化石採集」係

春のお散歩観察会・丘陵地の鳥と植物

葛城町から蜻蛉池公園周辺にかけての農耕地や雑木林をゆっくり歩きながら、植物や鳥類などの生き物を観察しましょう。

日時：2011年3月13日（日）午後1時15分～3時50分（雨天中止）

場所：岸和田市葛城町周辺のため池と農耕地

講師：中村進氏・西村静代氏（ともに日本野鳥の会会員、友の会評議員）ほか

対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）

定員：40名（保護者含む）

費用：1人50円（保険代）

申込：2月1日（火）～22日（火）「葛城町」係

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)